



Cisco UCS C3260 システム ストレージ管理

- [ストレージサーバ機能およびコンポーネントの概要 \(1 ページ\)](#)
- [Cisco UCS C3260 ストレージ管理操作 \(11 ページ\)](#)
- [高可用性のためのディスクの共有, on page 12](#)
- [ストレージエンクロージャ操作, on page 21](#)
- [SAS エクスパンダ設定ポリシー, on page 22](#)

ストレージサーバ機能およびコンポーネントの概要

ストレージサーバ機能

次の表に、Cisco UCS C3260 システムの機能の概要を示します。

表 1: Cisco UCS C3260 システムの機能

特長	説明
シャーシ	4 ラック ユニット (4RU) シャーシ
プロセッサ	<ul style="list-style-type: none">• Cisco UCS C3260 M3 サーバ ノード : 各サーバ ノード内の 2 つの Intel Xeon E5-2600 v2 シリーズ プロセッサ。• Cisco UCS C3260 M4 サーバ ノード : 各サーバ ノード内の 2 つの Intel Xeon E5-2600 v4 シリーズ プロセッサ。• Cisco UCS C3260 M3 サーバ ノード : 各サーバ ノード内の 2 つの Skylake 2S-EP プロセッサ。
メモリ	各サーバ ノード内で最大 16 個の DIMM。

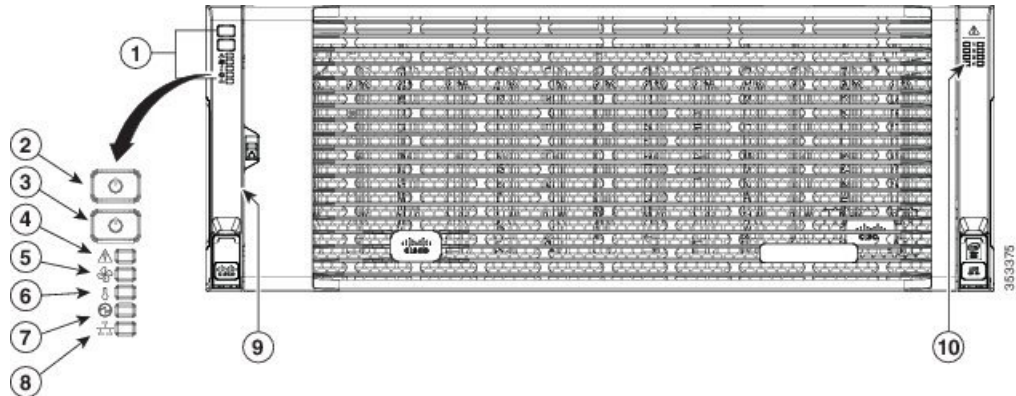
特長	説明
マルチビット エラー保護	このシステムは、マルチビット エラー保護をサポートします。
ストレージ	<p>システムには次のストレージ オプションがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 最大 56 台のトップ ローディング 3.5 インチ ドライブ • オプションのドライブ エクспанダ モジュール内に最大 4 台の 3.5 インチ、リア ローディング ドライブ • 最大 4 台の 2.5 インチ、リア ローディング SAS ソリッドステート ドライブ (SSD) • サーバ ノード内部の 1 台の 2.5 インチ NVMe ドライブ <ul style="list-style-type: none"> (注) これは S3260 M4 サーバにのみ適用されます。 • サーバ ノード内に 2 台の 7 mm NVMe ドライブ <ul style="list-style-type: none"> (注) これは、S3260 M5 サーバのみに適用されます。 • IO エクспанダのサポートされている 2 つの 15 mm NVMe ドライブ
ディスク管理	<p>このシステムは、最大 2 台のストレージ コントローラをサポートしています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 各サーバ ノード内に Cisco ストレージ コントローラ カード用の専用メザニン形式 ソケット 1 基
RAID バックアップ	supercap 電源モジュール (SCPM) は、RAID コントローラ カードにマウントされます。

特長	説明
PCIe I/O	<p>オプションの I/O エクスパンダは、8x Gen 3 PCIe 拡張スロットを 2 つ提供します。</p> <p>リリース 3.2(3) 以降では、S3260 M5 サーバで次をサポートしています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Intel X550 デュアルポート 10GBase-T • Qlogic QLE2692 デュアルポート 16G ファイバチャネル HBA • N2XX-AIPCI01 Intel X520 デュアルポート 10 Gb SFP+ アダプタ
ネットワークおよび管理 I/O	<p>システムには、システム I/O コントローラ (SIOC) を 1 つまたは 2 つ搭載できます。それにより、背面パネル管理とデータ接続が可能になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • SIOC ごとに 2 つの SFP+ 40 Gb ポート • SIOC ごとに 1 つの 10/100/1000 イーサネット専用管理ポート <p>サーバノードごとに、KVM ケーブルで 2 つの USB を接続できる 1 つの背面パネル KVM コネクタ、1 つの VGA DB-15 コネクタ、1 つのシリアル DB-9 コネクタがあります。</p>
電源	2 台または 4 台の電源装置、各 1050 W (ホットスワップ可能で 2+2 冗長)。
冷却	<p>前面から背面に冷却を引き出す 4 つの内蔵ファンモジュール、ホットスワップ可能。各ファンモジュールには 2 つのファンが内蔵されています。</p> <p>さらに、各電源にはファンが 1 個あります。</p>

前面パネルの機能

次の図に、Cisco UCS C3260 システムの前面パネルの機能を示します。

図 1: 前面パネルの機能

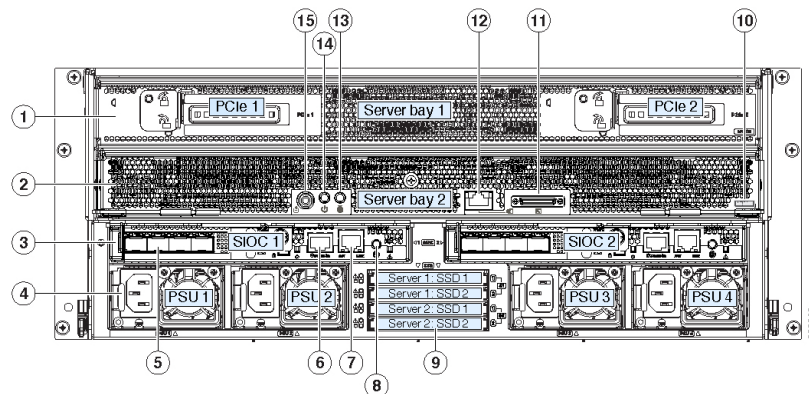


1	操作パネル	6	温度ステータス LED
2	システム電源ボタン/LED	7	電源装置ステータス LED
3	システム ユニット識別ボタン/LED	8	ネットワーク リンク アクティビティ LED
4	システム ステータス LED	9	引き出し型の資産タグ (前面ベゼルの下に表示されない)
5	ファン ステータス LED	10	内蔵ドライブのステータス LED

背面パネルの機能

次の図に、Cisco UCS C3260 システムの背面パネルの機能を示します。

図 2: 前面パネルの機能



ディスク スロット

1	サーバー ベイ 1 <ul style="list-style-type: none">• (オプション) I/O エクスパンダ (図を参照) (Cisco UCS C3260 M4および M5サーバノードのみに搭載)• (オプション) サーバノード• (オプション) ドライブ拡張モジュール	8	現時点ではサポートされていません。
2	サーバー ベイ 2 <ul style="list-style-type: none">• (オプション) サーバノード (Cisco UCS C3260 M4および M5に表示)• (オプション) ドライブ拡張モジュール	9	現時点ではサポートされていません。

3	<p>システム I/O コントローラ (SIOC)</p> <ul style="list-style-type: none"> • サーバ ベイ 1 にサーバ ノードがある場合、SIOC 1 が必要 • サーバ ベイ 2 にサーバ ノードがある場合は SIOC 2 が必要です 	10	<p>ソリッドステートドライブ ベイ (最大で 4 つの 2.5 インチ SAS SSD)</p> <ul style="list-style-type: none"> • ベイ 1 および 2 の SSD には、サーバベイ 1 のサーバノードが必要です • ベイ 3 および 4 の SSD には、サーバベイ 2 のサーバノードが必要です
4	電源装置 (4、2+2 として冗長)	11	<p>Cisco UCS C3260 M4 サーバノードのラベル (M4 SVRN)</p> <p>(注) このラベルは、Cisco UCS C3260 M4 および M5サーバノードを識別します。Cisco UCS C3260 M3 サーバノードにはラベルがありません。</p>
5	40 Gb SFP+ ポート (SIOC ごとに 2 つ)	12	<p>KVM コンソール コネクタ (サーバノードごとに 1 つ)</p> <p>USB 2 個、VGA 1 個、シリアルコネクタ 1 個を装備した KVM ケーブルで使用</p>

6	Chassis Management Controller (CMS) のデバッグファームウェアユーティリティポート (SIOC ごとに1つ)	13	サーバノードのユニット識別ボタン/LED
7	10/100/1000 専用管理ポート、RJ-45 コネクタ (SIOC ごとに1つ)	14	サーバノードの電源ボタン
		15	サーバノードのリセットボタン (サーバノードのチップセットをリセット)

ストレージサーバコンポーネント

サーバノード

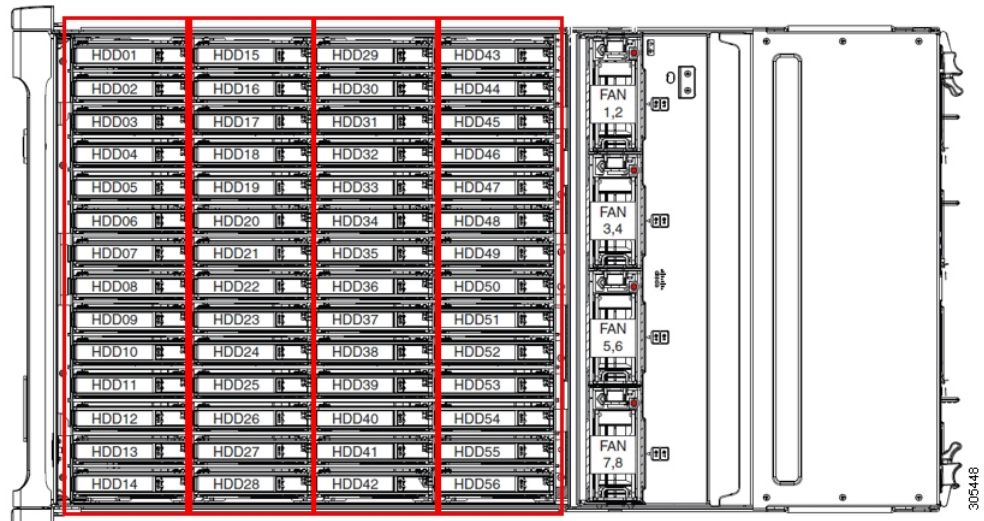
Cisco UCS C3260 システムは、1つまたは2つのノードから構成されています。各ノードには2つのCPU、128 GB、256 GB、または512 GBのDIMMメモリ、最大4GBのキャッシュのRAIDカードまたはパススルーコントローラが備わっています。サーバノードは次のいずれかです。

- Cisco UCS C3260 M3 サーバノード
- Cisco UCS C3260 M4 サーバノード：このノードに、サーバノードの上部に接続するオプションのI/O エクスパンダが含まれる場合があります。
- Cisco UCS C3260 M5 サーバノード：このノードに、サーバノードの上部に接続するオプションのI/O エクスパンダが含まれる場合があります。

ディスクスロット

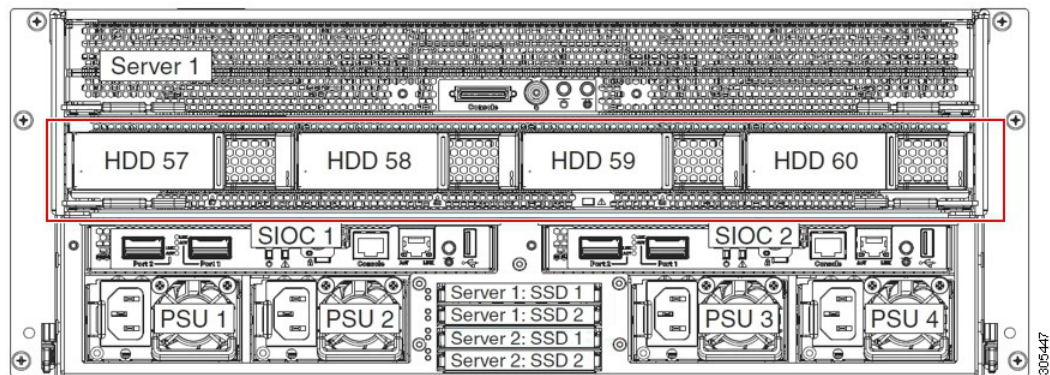
Cisco UCS S3260 シャーシのHDDマザーボードに14ディスクスロットが4行と、HDD拡張トレイに追加の4ディスクスロットがあります。次の図は、上面からアクセス可能でホットスワップ可能な56台の3.5インチの6TBまたは4TB 7200 rpm NL-SAS HDDドライブのディスクの配置を示しています。ディスクスロットに2つのSASポートがあり、それぞれがシャーシのSASエクスパンダに接続されます。

図 3: Cisco UCS C3260 上面図



次の図は、HDD 拡張トレイに 4 つの追加ディスク スロットを備えた Cisco UCS S3260 シャーシを示しています。

図 4: HDD 拡張トレイを搭載した Cisco UCS 3260 (背面図)



2 つのサーバノードと 2 つの SIOC がある場合、次の機能を使用できます。

1. 上のサーバノードは左の SIOC (サーバスロット 1、SIOC1) を使用します。
2. 下のサーバは右の SIOC (サーバスロット 2、SIOC2) を使用します。

2 つの SIOC を搭載した 1 つのサーバノードがある場合、Server SIOC Connectivity 機能を有効にできます。リリース 3.1(3) から、Cisco UCS C3260 システムでは Server SIOC Connectivity 機能がサポートされています。シャーシに単一サーバとデュアル SIOC が装着されている場合、この機能を使用して、プライマリ SIOC および補助 SIOC の両方を経由するデータパスを設定できます。

SAS エクスパンダ

Cisco UCS C3260 システムには、冗長モードで実行し、シャーシレベルのディスクをサーバのストレージコントローラに接続する2つのSASエクспанダがあります。SASエクспанダは、ストレージコントローラのために2つのパスを提供するため、可用性が向上します。それらには、次の利点があります。

- ハードドライブのプールを管理します。
- サーバのストレージコントローラへのハードドライブのディスクのゾーン設定。

リリース 3.2(3a)以降、Cisco UCS Managerは、ディスクスロットごとに単一のDiskPortを設定することによって、ディスクへの単一パスアクセスを有効にすることができます。これにより、サーバは単一のデバイスのみを検出し、マルチパス設定を避けることができます。

次の表に、各SASエクспанダのポートの、導入の種類に基づくディスクへの接続方法について示します。

Port range	Connectivity
1 ~ 56	上面からアクセス可能なディスク
57 ~ 60	HDD 拡張トレイのディスク。



- (注) ストレージコントローラとSASエクспанダ間のSASのアップリンクの数は、サーバに搭載されているコントローラのタイプによって異なることがあります。

ストレージエンクロージャ

Cisco UCS C3260には、次のタイプのストレージエンクロージャが備わっています。

シャーシレベルのストレージエンクロージャ

- **HDD motherboard enclosure** : シャーシの56のデュアルポートディスクスロットは、HDDマザーボードエンクロージャで構成されています。
- **HDD 拡張トレイ** : Cisco UCS C3260 システムに追加された4つのデュアルディスクスロットでHDD拡張トレイを構成しています。



- (注) HDD拡張トレイは現場交換可能ユニット (FRU) です。ディスクは挿入時は未割り当てのままであり、ストレージコントローラに割り当てることができます。ディスクゾーン分割の実行方法の詳細については、次を参照してください。 [ディスクゾーン分割ポリシー \(12 ページ\)](#)

サーバレベルのストレージエンクロージャ

サーバレベルのストレージエンクロージャは、サーバに事前に割り当てられた専用のエンクロージャです。次のいずれかになります。

- **背面ブート SSD エンクロージャ**：このエンクロージャには、Cisco UCS C3260 システムの背面パネル上の2つの2.5インチディスクスロットが含まれています。各サーバは2つの専用ディスクスロットを備えています。これらのディスクスロットはSATA SSDをサポートします。
- **Server board NVMe enclosure**：このエンクロージャには1つのPCIe NVMe コントローラが搭載されています。



(注) Cisco UCS C3260 システムでは、上記2種類のエンクロージャに物理的にディスクが存在することもできますが、ホスト OS からは、すべてのディスクが SCSI エンクロージャの一部として見なされます。これらは単一SESエンクロージャとして動作するように設定された SAS エクスパンダに接続されます。

ストレージコントローラ

メザニンストレージコントローラ

次の表に、さまざまなストレージコントローラのタイプ、ファームウェアのタイプ、モード、共有およびOOBサポートを示します。

表 2:

ストレージコントローラのタイプ	ファームウェアのタイプ	モード	共有	OOB サポート
UCSC-S3X60-R1GB	メガ RAID	HW RAID、JBOD	いいえ	はい
UCS-C3K-M4RAID	メガ RAID	HW RAID、JBOD	いいえ	はい
UCSC-S3X60-HBA	イニシエータターゲット	パススルー	はい	はい
UCS-S3260-DHBA	イニシエータターゲット	パススルー	はい	はい
UCS-S3260-DRAID	メガ RAID	HW RAID、JBOD	いいえ	はい

その他のストレージコントローラ

SW RAID コントローラ：Cisco UCS C3260 システム内のサーバは、SW RAID コントローラに接続しているPCIeライザーに組み込まれた、2つの専用内部SSDをサポートします。このコントローラは、Cisco C3000 M3 サーバでサポートされます。

NVMe コントローラ：Cisco UCS C3260 システム内のサーバによって、NVMe ディスクのインベントリとファームウェアアップデートにこのコントローラが使用されます。

さまざまなサーバノードでサポートされているストレージコントローラに関する詳細は、関連するサービス ノートを参照してください。

- [Cisco UCS S3260 ストレージ サーバ サービス ノート用 Cisco UCS C3X60 M3 サーバ ノード](#)
- [Cisco UCS S3260 ストレージ サーバ サービス ノート用 Cisco UCS C3X60 M4 サーバ ノード](#)
- [Cisco UCS S3260 ストレージ サーバ用 Cisco UCS S3260 M5 サーバ ノードのサービス ノート](#)

Cisco UCS C3260 ストレージ管理操作

次の表に、Cisco UCS Manager 統合 Cisco UCS C3260 システムで、実行できるさまざまなストレージ管理操作を示します。

動作	説明	次を参照してください。
高可用性のためのディスクの共有	<p>Cisco UCS C3260 システムの SAS エクспанダは、ドライブのプールをシャーマレベルで管理できます。高可用性のためにディスクを共有するには、次の手順を実行してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ディスク ゾーン分割ポリシーを作成します。 2. ディスクのスロットを作成し、所有権を割り当てます。 3. シャーマプロファイルにディスクを関連付けます。 	このガイドの「ディスク ゾーン分割ポリシー」セクション。

動作	説明	次を参照してください。
ストレージプロファイル、ディスクグループおよびディスクグループ設定ポリシー	Cisco UCS C3260 システムでストレージディスクの定義、ディスクの割り当て、および管理を行うには、Cisco UCS Manager のストレージプロファイルとディスクグループポリシーを利用できます。	『Cisco UCS Manager Storage Management Guide, Release 3.1(2)』の「Storage Profiles」セクション。Cisco UCS Manager リリース 3.2 ストレージ管理ガイド
ストレージエンクロージャ操作	サーバで、HDD 拡張トレイを交換するか、以前に挿入したトレイを取り外します。	このガイドの「シャードレベルのストレージエンクロージャの削除」セクション。

高可用性のためのディスクの共有

ディスク ゾーン分割ポリシー

ディスク ゾーン分割を使用してサーバノードにドライブを割り当てることができます。ディスクゾーン分割は、同一サーバのコントローラまたは異なるサーバのコントローラで実行することができます。ディスクの所有権は次のいずれかになります。

未割り当て

未割り当てのディスクとは、サーバノードに表示されていないものを指します。

専用

このオプションを選択すると、**[Server]** および **[Controller][Server]**、**[Controller]**、**[Drive Path]**、およびディスク スロットの **[Slot Range]** の値を設定する必要があります。



(注) ディスクは割り当てられたコントローラにのみ表示されます。

リリース 3.2(3a)以降、Cisco UCS S 3260 M 5 以降のサーバでは、Cisco UCS Manager は、ディスク スロットごとに単一の DiskPort を設定することによって、ディスクへの単一パスアクセスを有効にすることができます。1つのパスの設定により、サーバが設定で選択されたドライブが1つパスでのみディスクドライブを検出します。シングルパスアクセスは、**Cisco UCS S3260 デュアルパススルーコントローラ (UCS-S3260-DHBA)** でのみサポートされています。

シングルパスアクセスが有効になると、3.2(3a)より前のリリースにダウングレードすることはできません。ダウングレードするには、ディスクゾーニングポリシーでディスク

スロットのディスクパスを**Path Both**に設定して、この機能を無効にし、すべてのディスクスロットを両方のディスクポートに割り当てます。

共有

共有ディスクとは、複数のコントローラに割り当てられるものを指します。これらは、サーバがクラスタ構成で動作し、各サーバにHBAモードのストレージコントローラがある場合に絞って使用されます。



(注) デュアルHBAコントローラを使用する場合は、特定の条件下では共有モードを使用できません。

シャーシのグローバルホットスペア

このオプションを選択すると、ディスクの[Slot Range]の値を設定する必要があります。



重要 ディスクの移行と孤立したLUNの要求：サーバ（サーバ1）へゾーン分割されたディスクを別のサーバ（サーバ2）に移行するには、仮想ドライブ（LUN）を転送準備完了としてマークするか、仮想ドライブを非表示にする処理を実行します。次に、そのディスクに割り当てるディスクゾーン分割ポリシーを変更できます。仮想ドライブ管理の詳細については、『[Cisco UCS Manager Storage Management Guide](#)』の「*Disk Groups and Disk Configuration Policies*」のセクションを参照してください。

ディスクゾーン分割ポリシーの作成

手順

- ステップ1 [Navigation] ペインで [Chassis] をクリックします。
- ステップ2 [Policies] > [root] の順に展開します。
- ステップ3 [Disk Zoning Policies] を右クリックし、[Create Disk Zoning Policy] を選択します。
- ステップ4 [Create Disk Zoning Policy] ダイアログボックスで、次を入力します。

名前	説明
[名前 (Name)] フィールド	<p>ポリシーの名前。</p> <p>この名前には、1～16文字の英数字を使用できます。- (ハイフン)、_ (アンダースコア)、: (コロン)、および. (ピリオド) は使用できますが、それ以外の特殊文字とスペースは使用できません。また、オブジェクトが保存された後に、この名前を変更することはできません。</p>

名前	説明
[説明 (Description)] フィールド	<p>ポリシーの説明。ポリシーを使用すべき場所や条件についての情報を含めることをお勧めします。</p> <p>256文字以下で入力します。次を除く任意の文字またはスペースを使用できます。` (アクセント記号)、\ (円記号)、^ (caret)、" (二重引用符)、= (等号)、> (大なり)、< (小なり)、または' (一重引用符) は使用できません。</p>
[Preserve Config] チェックボックス	<p>このチェックボックスをオンにすると、スロット番号、所有権、割り当てられたサーバ、割り当てられたコントローラとコントローラのタイプなどのディスクに関するすべての設定関連情報を維持します。</p> <p>(注) デフォルトでは、[Preserve Config] チェックボックスはオフになっています。</p>

[Disk Zoning Information] 領域で、次を入力します。

名前	フィールド
[Name] カラム	ディスク スロットの名前。
[Slot Number] カラム	ディスクのスロット番号。

名前	フィールド
[Ownership] カラム	

名前	フィールド
	<p>スロットの所有権の値。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Unassigned : このオプションは、デフォルトで選択されます。[Slot Range] フィールドにスロット番号を設定できます。 • Dedicated—このオプションを選択すると [Server]、[Controller]、およびディスクスロットの [Drive Path]、および [Slot Range] の値を設定する必要があります。 <p>リリース 3.2(3a)以降、Cisco UCS Manager は、ディスクスロットごとに単一の DiskPort を設定することによって、ディスクへの単一バスアクセスを有効にすることができます。これにより、サーバは単一のデバイスのみを検出し、マルチパス設定を避けることができます。</p> <p>ドライブのパスのオプションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 両方のパス(デフォルト)- ドライブパスは両方の SAS エクспанダにゾーニングされます。 • パス 0 - ドライブパスは、SAS エクспанダ 1 にゾーニングされます。 • パス 1 - ドライブパスは、SAS エクспанダ 2 にゾーニングされます。 <ul style="list-style-type: none"> • Shared : このオプションを選択すると、ディスクスロットに対する、[Slot Range] と、割り当てられているサーバ、割り当てられているコントローラ、コントローラのタイプなどのコントローラ情報の値を設定する必要があります。 <p>(注) デュアル HBA コントローラを使用する場合は、特定の条件下では共有モードを使用できません。デュアル HBA コントローラの共有モードの条件を確認するには、表3:デュアル HBA コントローラの共</p>

名前	フィールド
	<p>有モードの制約事項 (17 ページ) を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Chassis Global Hot Spare : このオプションを選択すると、ディスク スロットに対する [Slot Range] の値を設定する必要があります。
[Assigned to Server] 列	ディスクが割り当てられているサーバの ID。
[Assigned to Controller] 列	<p>ディスクが割り当てられているコントローラの ID。</p> <p>(注) デュアル RAID セットアップで、最初のコントローラから 2 番目のディスクにディスクを移行するには、[Assigned to Controller] をセカンドコントローラに変更します。</p>
[Controller Type] 列	コントローラのタイプ。ディスクが専用または共有のいずれでも、コントローラ タイプは常に SAS です。

表 3: デュアル HBA コントローラの共有モードの制約事項

サーバ	HDD トレイ	コントローラ	共有モードのサポート
Cisco UCS C3260	非対応	デュアル HBA	サポート対象外
Cisco UCS C3260	HDD トレイ	デュアル HBA	サポート対象外
事前プロビジョニング	HDD トレイ	デュアル HBA	サポート対象外

ディスク スロットの作成と所有権の割り当て

ディスク ゾーン分割ポリシーの作成後、ディスク スロットを作成し、所有権を割り当てる必要があります。

手順

- ステップ 1 [Navigation] ペインで [Chassis] をクリックします。
- ステップ 2 [Policies] > [root] > [Disk Zoning Policies] の順に展開して、ディスク スロットを追加するディスク ゾーン分割ポリシーを選択します。
- ステップ 3 [Work] ペインで、[Actions] の下の [Add Slots to Policy] をクリックします。
- ステップ 4 [Add Slots to Policy] ダイアログボックスで、次のように入力します。

名前	説明
[Ownership] チェックボックス	<p>ディスク スロットの所有権。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Unassigned : このオプションは、デフォルトで選択されます。 [Slot Range] フィールドにスロット番号を設定できます。 • Dedicated : このオプションを選択すると、 [Server]、 [Controller]、 およびディスク スロットの [Slot Range] の値を設定する必要があります。 • Shared : このオプションを選択すると、ディスク スロットに対する、 [Slot Range] と、割り当てられているサーバ、割り当てられているコントローラ、コントローラのタイプなどのコントローラ情報の値を設定する必要があります。 <p>(注) デュアル HBA コントローラを使用する場合は、特定の条件下では共有モードを使用できません。デュアル HBA コントローラの共有モードの条件を確認するには、表 3: デュアル HBA コントローラの共有モードの制約事項 (17 ページ) を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Chassis Global Hot Spare : このオプションを選択すると、ディスク スロットに対する [Slot Range] の値を設定する必要があります。

- ステップ 5 [OK] をクリックします。

シャーシプロファイルへのディスクゾーン分割ポリシーの関連付け

手順

- ステップ 1 [ナビゲーション] ペインで [シャーシ] をクリックします。
- ステップ 2 [シャーシ] > [シャーシプロファイル] を展開します。
- ステップ 3 シャーシプロファイルを作成する組織のノードを展開します。
システムにマルチテナント機能が備えられていない場合は、[root] ノードを展開します。
- ステップ 4 組織を右クリックし、[Create Chassis Profile] を選択します。
- ステップ 5 [Identify Chassis Profile] ページで、シャーシプロファイルの名前を指定し、[Next] をクリックします。
- ステップ 6 (任意) [Maintenance Policy] ページで、メンテナンスポリシーの名前を指定して [Next] をクリックします。
- ステップ 7 [Chassis Assignment] ページで、[Chassis Assignment] の下の [Select existing Chassis] を選択し、このシャーシプロファイルに関連付けるシャーシを選択します。[Next] をクリックします。
- ステップ 8 [Disk Zoning] ページで、このシャーシプロファイルに関連付けるディスクのゾーン分割に関するポリシーを指定します。
- ステップ 9 [終了] をクリックします。

ディスクの移行

1 つのサーバから別のサーバへゾーン分割されているディスクを移行する前に、転送準備完了として仮想ドライブ (LUN) をマークするか、または仮想ドライブの非表示操作を実行する必要があります。これにより、サービスプロファイルからのすべての参照がディスクの移行前に削除されたことを確認します。仮想ドライブの詳細については、『Cisco UCS Manager Storage Management Guide, Release 3.1』、『Cisco UCS Manager リリース 3.2 ストレージ管理ガイド』の「仮想ドライブ」セクションを参照してください。



- (注) デュアルRAIDセットアップで、ディスクをファーストコントローラからセカンドに移行するには、ディスクゾーニングポリシーの [Assigned to Controller] をセカンドコントローラに変更します。ディスクゾーン分割ポリシーの作成 (13 ページ) を参照してください。

手順

- ステップ 1 [Navigation] ペインで、[Equipment] > [Chassis] > [Servers] の順にクリックします。
- ステップ 2 ディスクの移行を実行するサーバを選択します。

- ステップ 3 [Work (作業)] ペインで、**[Inventory (インベントリ)]** タブをクリックします。
- ステップ 4 [Storage] サブタブをクリックします。
- ステップ 5 [LUNs] サブタブをクリックします。
- ステップ 6 別のサーバに移行するための仮想ドライブを準備するストレージコントローラを選択します。
- ステップ 7 移行するディスクを選択します。
- ステップ 8 [Actions] 領域で、次のいずれかを選択します。

名前	説明
Rename	ディスクの名前を変更するには、このリンクをクリックします。
[削除 (Delete)]	ディスクを削除するには、このリンクをクリックします。
Set Transportation Ready	1つのサーバから別のサーバへ仮想ドライブを安全に移行するには、このリンクをクリックします。 (注) ディスクグループのすべての仮想ドライブは、移行またはサーバノードから割り当て解除される前に、非表示としてマークされている必要があります。
Clear Transportation Ready	仮想ドライブの状態の転送準備完了をクリアするには、このリンクをクリックします。

名前	説明
Hide Virtual Drive	1つのサーバから別のサーバへ仮想ドライブを安全に移行するには、このオプションをクリックします。 (注) ディスクグループのすべての仮想ドライブは、移行またはサーバノードから割り当て解除される前に、非表示としてマークされている必要があります。
Unhide Virtual Drive	仮想ドライブを表示して入出力処理を有効にするには、このリンクをクリックします。

ストレージエンクロージャ操作

シャーシレベルのストレージエンクロージャの削除

物理的に取り外した後で、Cisco UCS ManagerのHDD拡張トレイに対応するストレージエンクロージャを削除できます。サーバレベルまたは他のシャーシレベルのストレージエンクロージャは削除できません。

手順

ステップ1 [ナビゲーション]ペインで、[機器]をクリックします。

- ステップ2 [Chassis (シャーシ)] > [Servers (サービス)] > [Storage Enclosures (ストレージ エンクロージャ)] の順に展開します。
- ステップ3 削除するストレージエンクロージャを選択します。
- ステップ4 [Actions] 領域で [Remove Enclosure] をクリックします。

SAS エクスパンダ設定ポリシー

SAS エクスパンダ設定ポリシーの作成

手順

	コマンドまたはアクション	目的				
ステップ1	[ナビゲーション] ペインで [シャーシ] をクリックします。					
ステップ2	[シャーシ] > [ポリシー] を展開します。					
ステップ3	ポリシーを作成する組織のノードを展開します。	システムにマルチテナント機能が備えられていない場合は、[root] ノードを展開します。				
ステップ4	[Sas Expander Configuration Policies] を右クリックし、[Create Sas Expander Configuration Policy] を選択します。					
ステップ5	[Create Sas Expander Configuration Policy] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>名前</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>[名前 (Name)] フィールド</td> <td>ポリシーの名前。 この名前には、1 ~ 16 文字の英数字を使用できます。 - (ハイフン) 、 _ (アンダースコア) 、 : (コロン) 、 および . (ピリオド) は使用できますが、それ以外の特殊文字とスペースは使用できません。また、オブジェクトが保存された後に、この名前を変更することはできません。</td> </tr> </tbody> </table>	名前	説明	[名前 (Name)] フィールド	ポリシーの名前。 この名前には、1 ~ 16 文字の英数字を使用できます。 - (ハイフン) 、 _ (アンダースコア) 、 : (コロン) 、 および . (ピリオド) は使用できますが、それ以外の特殊文字とスペースは使用できません。また、オブジェクトが保存された後に、この名前を変更することはできません。
名前	説明					
[名前 (Name)] フィールド	ポリシーの名前。 この名前には、1 ~ 16 文字の英数字を使用できます。 - (ハイフン) 、 _ (アンダースコア) 、 : (コロン) 、 および . (ピリオド) は使用できますが、それ以外の特殊文字とスペースは使用できません。また、オブジェクトが保存された後に、この名前を変更することはできません。					

	コマンドまたはアクション	目的	
		名前	説明
		[説明 (Description)] フィールド	<p>ポリシーの説明。ポリシーを使用すべき場所や条件についての情報を含めることをお勧めします。</p> <p>256 文字以下で入力します。次を除く任意の文字またはスペースを使用できます。` (アクセント記号)、\ (円記号)、^ (caret)、" (二重引用符)、= (等号)、> (大なり)、< (小なり)、または' (一重引用符) は使用できません。</p>

	コマンドまたはアクション	目的	
		名前	説明
		[6G-12G Mixed Mode] フィールド	

コマンドまたはアクション	目的	
	名前	説明
		<p>次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Disabled] : このポリシーでは接続管理が無効になっているため、12G が使用可能でも SAS エクスパンダは6Gの速度のみを使用します。 • [Enabled] : このポリシーでは接続管理が有効になっており、可用性に基づいて6Gと12G間で速度をインテリジェントに切り替えます。 <p>[6G-12G Mixed Mode] を有効にした後は、3.2(3a)より前のリリースにダウングレードすることはできません。ダウングレードするには、このモードを無効にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [No Change] (デフォルト) : 事前の設定が保持されます。 <p>(注) [6G-12G Mixed Mode] モードを有効または無効にするには、システムが再起動します。</p> <p>[6G-12G Mixed Mode] フィールド は、Cisco</p>

	コマンドまたはアクション	目的	
		名前	説明
			UCS S3260 M5 以降のサーバでのみ使用可能です。
ステップ 6	[OK] をクリックします。		

SAS エクスパンダ設定ポリシーの削除

手順

ステップ 1 [ナビゲーション] ペインで [シャーシ] をクリックします。

ステップ 2 [シャーシ] > [ポリシー] を展開します。

ステップ 3 プールを含む組織のノードを展開します。

システムにマルチテナント機能が備えられていない場合は、**[root]** ノードを展開します。

ステップ 4 [Sas Expander Configuration Policies] を展開します。

ステップ 5 削除する SAS エクスパンダ ポリシーを右クリックし、[Delete] を選択します。

ステップ 6 確認ダイアログボックスが表示されたら、**[はい]** をクリックします。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。